

# 大学評価学会通信

## 目次

|                      |    |
|----------------------|----|
| ◆ 大学評価学会第17回全国大会のご案内 | 1  |
| ◆ 理事会の報告             | 7  |
| ◆ 秋季研究集会報告           | 9  |
| ◆ 研究会の報告             | 10 |
| ◆ 海外出張報告             | 11 |
| ◆ 編集委員会からのお知らせ       | 11 |
| ◆ 学会活動日誌             | 12 |
| ◆ 事務局からのお知らせ         | 12 |

## 大学評価学会第17回全国大会のご案内

### 大会テーマ

## 「大学人像」の再構築

### 趣旨

学問の自由が市民の権利となる一方、学長の選考に大学人が加われない大学が増えている。教職員や学生が大学の過去や未来について語る機会はほとんどない。そのなかで、「グランドデザイン」や「ガバナンス」は大学人に関してどのような方向性＝「大学人像」を示しているのだろうか。課題は二つある。一つは、大学自治を基盤とする教員と職員の職業専門性をどう捉えなおすか、もう一つは、自治の担い手としての学生を大学のなかにどう位置づけるかである。

1997年の「大学の教員等の任期に関する法律」以降、教員の流動性が「研究力」を向上させるという仮説のもと、受け皿のないままの大学院重点化や、競争的資金による短期の任期付教員の採用が進んだ。不透明な「公募」、非常勤講師の「雇い止め」も公然と行われるようになった。また、大学職員の非正規職員と派遣社員による置きかえも進んでいる。「客観的」な評価の導入が、補助金や認証評価制度と連動する形で強いられ、そのことが、研究倫理に関わる不正、質を問わない業績点数主義、評価の適切性確保への取り組みを欠いたままの職員評価とその処遇への反映をもたらしている。

教職員のこうした境遇は、大学人としての学生にもさまざまな影響を与えずにはいない。学生は大学のなかで成長・発達するとともに、すでに選挙権もある市民社会の一員である。社会（および大学）のなかで、自立した個人としてふるまうことを期待されている。しかしながら、「高大接続改革」は高校教育と大学教育をどのように結ぶのであろうか。「新大学入試」は、何を根拠に学生となるのにふさわしい人物を選ぶのであろうか。

グローバル化のもと、高等教育へのさまざまな政策が諸外国のあり方を部分的に模倣するような仕方で実施され、それに大学評価（認証評価、法人評価、競争的資金配分の際の評価）が連動している。大学人はそのなかで、学問の自由と自律をいかに担いうるかを問われている。2019年度大会においては、この20年余りの政府主導の大学改革のもとでの「大学人像」の変容と、その再構築について考えたい。

大学評価学会第17回全国大会実行委員会

## 【会 場】

桜美林大学 新宿キャンパス（〒169-0073 東京都新宿区百人町3丁目23-1）

※ 学会通信 3 ページの会場へのアクセスをご覧ください。

## 【大会日程】

3月7日（土）

|               |      |                 |
|---------------|------|-----------------|
| 9:30 ～ 12:00  | 大会受付 | 2階 J201/J202教室前 |
| 13:00 ～ 17:00 |      | 3階 J302教室前      |

|               |                 |                                |
|---------------|-----------------|--------------------------------|
| 10:00 ～ 12:00 | 自由研究セッション（口頭発表） | A会場 2階 J201教室<br>B会場 2階 J202教室 |
| 12:00 ～ 13:30 | 昼食・休憩           |                                |
| 13:30 ～ 14:15 | 会員総会            | 3階 J302教室                      |
| 14:30 ～ 17:30 | 基調講演            | 3階 J302教室                      |
| 17:45 ～ 20:00 | 情報交換会           | 1階 カフェテリア                      |

3月8日（日）

|        |      |            |
|--------|------|------------|
| 9:00 ～ | 大会受付 | 3階 J302教室前 |
|--------|------|------------|

|               |                                      |           |
|---------------|--------------------------------------|-----------|
| 9:30 ～ 11:30  | 課題研究 I                               | 3階 J302教室 |
| 11:30 ～ 13:00 | 昼食・休憩                                |           |
| 13:00 ～ 13:40 | ポスターセッション（コアタイム）<br>※前日よりポスター掲示が可能です | 3階 J302教室 |
| 13:45 ～ 16:15 | 課題研究 II（青年期の発達保障）                    | 3階 J302教室 |
| 16:20 ～ 17:00 | 総括討論                                 | 3階 J302教室 |

<学会関連行事> 3月6日（金）

|               |             |           |
|---------------|-------------|-----------|
| 17:00 ～ 19:00 | 第VII期第7回理事会 | 3階 J301教室 |
|---------------|-------------|-----------|

## 【大会参加要領】

|        |                     |         |
|--------|---------------------|---------|
| 大会参加費  | 会員                  | 1,500 円 |
|        | 非会員                 | 3,000 円 |
|        | 院生・学生等(会員・非会員を問わない) | 1,000 円 |
| 情報交換会費 | 会員・非会員              | 5,000 円 |
|        | 院生・学生等(会員・非会員を問わない) | 2,000 円 |

参加受付の場所は時間帯によって変わります。大会日程でご確認ください。

準備の都合上、2月26日（水）までに下記の要領で事前にお申し込みをお願いします。情報交換会については事前申込みが必要ですが、大会については当日参加も可能です。

本学会のウェブサイト（<http://www.unive.jp>）より、大学評価学会第17回全国大会の参加申込ページにてご登録ください。

## 【昼食についてのお願い】

① 施設内に食堂や売店はありません。両日とも昼食をご持参いただくか、新大久保駅付近（会場から1kmほど）の飲食店等でお済ませください。最寄りのコンビニエンスストアは大会会場から150mほどの場所にあります。

② 教室内での食事はご遠慮ください。ご持参の食事を召し上がる場合には1階ラウンジをご利用ください。また、ゴミはお持ち帰りください。

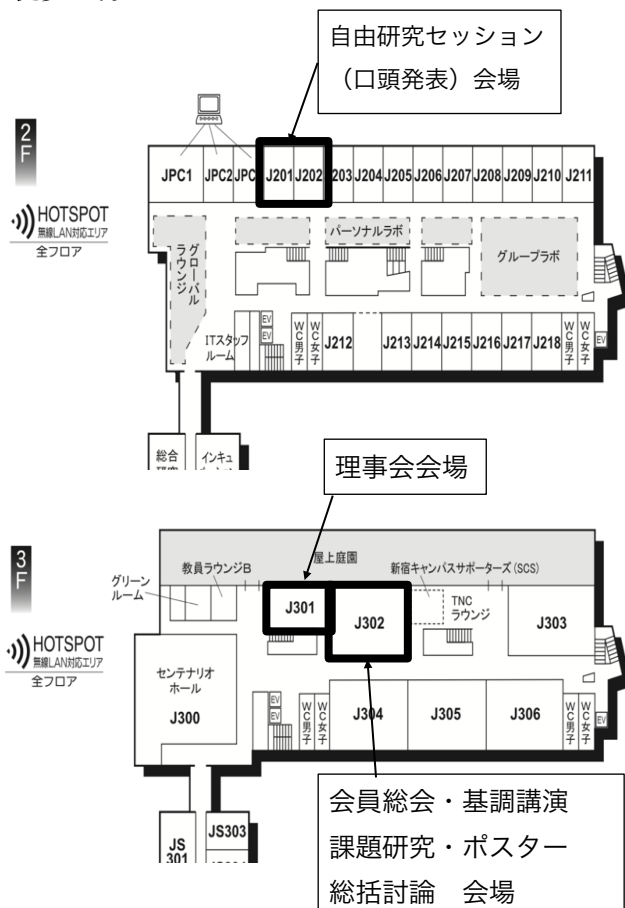
## 【会場利用にあたってのお願い】

- 1 会場に駐車場はありません。また車両で構内に乗り入れることはできません。来場の際は公共機関をご利用ください。
- 2 会場は全館禁煙です（敷地内に喫煙場所はありません。また、新宿区は路上喫煙が禁止されています。）。
- 3 会場内にコピー機はありません。発表資料の印刷などは、事前に近隣のコンビニエンスストア等をご利用ください。
- 4 施設内の貼り紙は禁止です。
- 5 書籍等の販売については、事前に大会実行委員会宛にご連絡ください。また販売場所については実行委員会の指示にしたがってください。
- 6 会場への事前の荷物の送付はできません。
- 7 会場への電話の取次ぎおよび伝言はできません。
- 8 情報交換会時の個人でのアルコールの持ち込みは禁止です。
- 9 その他、施設の利用に当たっては、大会実行委員会の指示に従ってください。

## 【会場へのアクセス】

桜美林大学 新宿キャンパス

- 新大久保駅（JR山手線）徒歩8分
- 大久保駅（JR中央・総武線）北口より徒歩6分
- 高田馬場駅（JR山手線）戸山口より徒歩13分



## 【大学評価学会第17回全国大会実行委員会／問合せ】

委員長：岡山茂（早稲田大学）

委員：石渡尊子（桜美林大学） 菊池芳明（横浜市立大学）

小池由美子（上田女子短期大学） 小山由美（日本大学）

問合せ・連絡先 E-mail : aue17@obirin.ac.jp

【大会プログラム】

3月7日（土）

9:30 ～ 12:00 大会受付（午前 2階 J201/J202教室前）

10:00 ～ 12:00 自由研究セッション（口頭発表 発表20分・質疑応答10分）

A会場（2階 J201教室） テーマ：大学評価

司会 米津直希（稚内北星学園大学）

1) フランスにおけるCNU（全国大学評議会）の役割と機能について

岡山 茂（早稲田大学）

2) 新たな認証評価機関の設立とその評価

中田 晃（放送大学大学院）

3) 大学評価と大学設置基準

光本 滋（北海道大学）

4) 大学がバナンスの現状とその評価の方法

—大学運営の合理性・民主性をどのように確保するか—

重本 直利（大学オンブズマン）

B会場（2階 J202教室） テーマ：教育・研究と大学

司会 細川 孝（龍谷大学）

1) 食品開発を例とした文理融合実践型教育の取り組み

○ 山田 千佳人（新潟薬科大学応用生命科学部）

外山 歩実・鶴巻 沙記・中嶋 沙也花・伊藤 徹至・

酒井 友里奈・大越 将・浅間 裕貴（新潟薬科大学  
応用生命科学部）

櫻井 涼佑・石井 司（新潟薬科大学薬学部）

村瀬 博昭（奈良県立大学）

坂爪 裕介（株式会社坂電工業）、

重松 亨・浅田 真一・中道 真（新潟薬科大学）

2) ジェンダー視点からの震災研究と大学の役割

朴木 佳緒留（京都教育大学）

3) 戦後改革期における大学教員養成に関する研究

—新制大学院構想に着目して—

吉田 翔太郎（山梨大学・東京大学大学院）

4) 戦後改革期における新制高等学校の職業教育改革構想

日永 龍彦（山梨大学）

（12:00 ～ 13:30 昼食・休憩）

13:00 ～ 17:00 大会受付（午後 3階 J302教室前）

13:30 ～ 14:15 会員総会（3階 J302教室）

14:30 ～ 17:30 基調講演（3階 J302教室）



## 「大学改革」のやめ方:お花畑的なユートピア幻想を越えて

講演 14:30 ～ 16:00 佐藤 郁哉 氏 (同志社大学教授)

※ 下記、基調講演者からのメッセージをあわせてご覧ください。

司会 水谷 勇 (神戸学院大学)

討論 16:10 ～ 17:30

指定討論者 岡山 茂(早稲田大学)

西垣 順子(大阪市立大学)

17:45 ～ 20:00 情報交換会 (1階 カフェテリア)

(基調講演者からのメッセージ)

### お花畑的なユートピア幻想を越えて

同志社大学商学部・佐藤郁哉

- ・次代（未来社会）を生き抜く力
- ・予測困難な時代にあって生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力
- ・将来を見通し、これからの社会を担い、未知の時代を切り拓く力

本学会の会員の方々には、既に（イヤと言うほどに）おなじみの文言であると思われます。いずれも、2012年の「質的転換答申」の文中で高等教育が目指すべき目標（学生が身につけるべき能力）としてあげられていたものです。これらの「力」に関する解説を目にした時に私の脳裡に浮かんできたのが、最近上梓した『大学改革の迷走』（ちくま新書）の序章でも使った次のフレーズでした-----「驚くほどに崇高で高邁なナンセンス」。

これら3つの力に関する記述はそれぞれかなり抽象的なところがあり理解しにくい点が少なくありません。しかし、そのそれぞれの記述を通常の言葉の意味どおりにとらえれば、これらの「力」は、ほとんど超人的な能力だと言えます。また、それらの能力を兼ね備えた人材は一種の英雄的存在だということにもなるでしょう。

正直に申しあげましょう。私は自分自身がこのような「力」を持っているとはまったく考えておりません。したがって、誰かに「あなたは、自分自身が、学生を3つの力を兼ね備えた並外れた人材として育成することができる教師であると思うか」と問われたら即座に「いいえ」と答えるしかないのです。

ただ、開き直りのように聞こえてしまったら恐縮なのですが、この文章を目にされている方々に対してここでひとつ伺いしてみたいことがあります。果たして、日本の行政関係者や大学関係者のうちどれだけの割合の人々が、そのような超人的な能力を兼ね備えた人材を育成するだけの（これまた超人的な）力量を持っていると言えるでしょうか、と。

何事につけても、理想を高らかに掲げまた将来の夢を語ることは非常に重要ではあります。しかし当然ながら、それは、実現不可能な「お花畑的なユートピア幻想」を語ることは全く別の次元に属する話であるに違いありません。

同様の点が、これまで中央教育審議会が、しばしば面妖な波ダークの記号（～）で前後が挟まれた副題を添えて示してきた答申のタイトルについても指摘できます。その最高傑作とも言えるのが、2014年12月に示された答申に付された次のサブタイトルです-----「～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～」。

本当に「若者」たちや子どもたちの「未来」について真面目に検討していきたいという気持ちが少しでもあるのならば、この種の（残念な）言葉遊びは、もういい加減やめにすべきでしょう。また、PDCA、EBPM、見える化を「改革三題噺」のように唱えながら、実のところ「見えぬ化」をひたすら図ってきた、この国の政治と行政の病理体質に関する徹底的な検証が完了するまでは、大学改革（ひいては教育改革全体）について一時停止期間（モラトリアム）を設ける必要があると思われます。

本基調講演では、2019年11月末に広島で開催された大学教育学会での基調講演における議論も踏まえながら、以上のような点について改めて詳しくお話ししていきたいと思っています。

3月8日(日)

9:00 ~

大会受付(終日 3階 J302教室前)

9:30 ~ 11:30

課題研究Ⅰ(3階 J302教室)

教職協働：大学職員の内発性に基づく役割モデルの再構築に向けた日・韓・台比較研究<2>  
座長 深野 政之(大阪府立大学)

<趣旨> 2018年度に採択された科研費研究計画では、本学会が創立以来継続してきた教職協働研究の蓄積を基盤として、韓国・台湾との国際共同研究により日本、韓国、台湾での実践の中から形成されてきた大学職員の役割モデルについて明らかにすることにより、日本の大学職員に対する新たな役割モデルを提示することを目的としている。今年度は8月に大学行政管理学会関東地区研究会との共同企画による韓国大学訪問調査・国際研究集会、12月には科研メンバーのみによる台湾再訪問調査によって、現地教職員へのインタビューと意見交換を行った。本分科会では、韓国・台湾での大学訪問調査報告と、日本の大学職員論の特徴を検証することを通じて、最終年度に向けて大学職員の新たな役割モデルを提示するための枠組みを議論したい。

- 1) 村上孝弘(龍谷大学)「韓国の大学訪問調査報告(1)」
- 2) 安東正玄(立命館大学)・飯野勝則(佛教大学)「台湾の大学訪問調査報告(3)」
- 3) 菊池芳明(横浜市立大学)「大学職員論の再構成に向けてー基本的視座ー」

<指定討論者> 光本 滋(北海道大学)

(11:30 ~ 13:00 昼食・休憩)

13:00 ~ 13:40

ポスターセッション(コアタイム)(3階 J302教室)

- 1) 学習指導要領と「心のバリアフリー」政策にみる「交流及び共同学習」の特徴  
：議事録分析を踏まえて  
金丸 彰寿(神戸松蔭女子学院大学)
- 2) 公正(equity)な大学運営のための評価論形成の試み(1)  
ーgender equity と大学評価ー  
西垣順子(大阪市立大学)
- 3) 大学職員の内発性に基づく役割モデルの再構築<2>  
深野 政之(大阪府立大学)
- 4) 哲学カフェ・カンボジアの活動：哲学プラクティスを「現地化」する  
望月太郎(大阪大学)
- 5) 市民による「大学評価」ー「地域の大学に関するアンケート」の結果からー  
米津 直希(稚内北星学園大学)

13:45 ~ 16:15

課題研究Ⅱ(3階 J302教室)

青年期の発達保障：高大接続「改革」の教育的課題と青年期の発達の在り方を問う

座長 小池由美子(上田女子短期大学)

<趣旨> 2014年12月に、中教審が「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体改革について(答申)」を出した。いわゆる三位一体改革である。この後大学「改革」には益々拍車が掛かり、センター試験を廃止し新たな大学入学共通テストが導入されることが決まった。これは、大学入試に国家が介入し、大学教育、高等学校教育を変質させるものである。本来の高大接続は、教育的な課題として青年期の発達保障の視座から捉える必要がある。この課題研究では、当事者として高校から大学院に至るまで自分の成長をどのようにとらえているか、院生の報告を受ける。高校教諭からは生徒の成長の捉え方や大学教育への期待を提起し、参加者で課題を深める。

- 1) 林 卓杜(筑波大学大学院修士課程2年生)
- 2) 樫村 祐志(学習院大学大学院修士課程1年生)
- 3) 齋藤 貴子(埼玉県立川越総合高校英語科教諭)

<指定討論者> 西垣 順子(大阪市立大学)

16:20 ~ 17:00

総括討論(3階 J302教室)

司会 小山 由美(日本大学)、小池 由美子(上田女子短期大学)

## 理 事 会 報 告

### 大学評価学会第Ⅶ期第5回理事会

日 時： 2019年9月7日（土）10時～12時

場 所： 早稲田大学・早稲田キャンパス 3号館702教室

出 席：岡山・日永・西垣・光本・安東・石渡・菊池・小池・小山・深野・村上・米津

委 任：井上・片山・川口・藤原・松下・水谷・渡部

（理事総数20人、出席12人、委任7人、欠席1人）

前回議事録案の確認（通信理事会を含む）

#### 【報告事項】

1. 学会年報について

#### 【審議事項】

1. 第17回大会@桜美林大学（2020.3.7-8.）について

- ・ 大会実行委員会より実施計画案について説明があり、意見交換ののち一部修正。
- ・ 大会発表申込み受付については、提案通り承認。

2. 次年度以降の事務局体制・学会運営について

- ・ 学会規約の改正状況（秋季研究集会の削除）について確認。
- ・ 今後の事務局機能の引き継ぎの準備（理事選挙・会計・会員管理等）の概要を説明。
- ・ 学会年報のEBSCOのデータベース搭載について説明があり、編集委員会でその可否について検討することを確認。
- ・ 課題研究における謝金の支払い方法について提案通りの方法で行うことを確認。

以上

### 大学評価学会第Ⅶ期第6回理事会

日 時： 2019年12月15日（日）10時～12時

場 所： 愛知工業大学・本山キャンパス 2階多目的室

出 席：岡山・日永・井上・西垣・光本・安東・川口・菊池・小池・小山・水谷・村上

委 任：石渡・松下・深野・藤原・米津・渡部

（理事総数20人、出席12人、委任6人、欠席2人）

前回議事録案の確認

#### 【報告事項】

1. 学会年報について（16号）
2. 学会賞の推薦について

#### 【審議事項】

1. 会員の異動について

- ・ 提案通り承認

2. 秋季研究集会の記録方法について

- ・ 年報には掲載せず、学会通信でのみ取り扱うことを確認。

3. 第17回大会@桜美林大学（2020.3.7-8）について

- ・ 大会の発表申込み状況・分科会編成案について承認。
  - ・ 大会の参加費・情報交換会費、大会参加申込み方法、大会広報、運営方法等について確認。
4. 学会通信の作成について
- ・ 執筆分担について確認。
5. その他
- ・ 日本学術会議からのアンケート依頼への対応について確認。
  - ・ 第18回全国大会を中部地区理事・幹事を中心に企画・運営することを確認。

以上

### **大学評価学会第Ⅶ期第1回通信理事会**

日 時： 2019年5月11日（土）配信～5月20日（月）まで

参加理事：岡山、日永、井上、西垣、光本、安東、石渡、片山、川口、菊池、小山、小池、  
深野、松下、水谷、村上、米津、渡部＝18名

#### **【報告事項】**

1. 教育学関連学会協議会第7回総会について
2. 日本教育学会『教育学研究』への2018年度大会報告執筆について
3. 第17回大会（桜美林大学）のテーマとテーマ設定の趣旨説明について

#### **【審議事項】**

1. 学会賞選考委員会の設置について
  - ・ 提案通り設置が了承された。
3. 学会通信48号の内容について
  - ・ 提案通り発行することが了承された。
4. 第6回開催候補日について
  - ・ 12月15日（日）に愛知工業大学（名古屋市）で開催を予定することとした。

以上

### **大学評価学会第Ⅶ期第2回通信理事会**

日 時： 2019年7月23日（火）配信～7月30日（火）まで

参加理事：岡山、日永、井上、西垣、光本、安東、石渡、片山、川口、菊池、小山、小池、  
深野、松下、水谷、村上、米津、渡部＝18名

#### **【報告事項】**

1. 研究集会2019@徳島県つるぎ町（第二次案）について
2. 学会出版物（シリーズ「大学評価を考える」の後継）企画の進捗状況について

#### **【審議事項】**

1. 会員の異動について
  - ・ 事務局の提案通り入会が了承された。
2. 第17回大会企画等について
  - ・ 提案通り了承された。

以上

## 研究会報告

### 大学評価学会 研究集会 @ 徳島県つるぎ町2019

2019年10月19日（土）本会初の地域とのコラボ研究集会を徳島県つるぎ町において開催しました。

午前 つるぎ町現地研修

世界農業遺産の「にし阿波の傾斜地」と貞光川の名瀑 土釜（どがま）見学

午後 講座（つるぎ町就業センター 大会議室にて）

13：30 ～ 「世界農業遺産とまちづくり」（大島理仁 つるぎ町役場商工観光課）

14：20 ～ 「石門心学とつるぎ町」（篠原俊次 つるぎ町半田在住 石門心学研究家）

15：10 ～ 「経営学のはなし」（井上千一 大学評価学会 大阪人間科学大学）

16：00 ～ 「制御工学のはなし」（松下尚史 大学評価学会 岡山理科大学）

16：50 ～ 「仏文学のはなし」（岡山茂 大学評価学会 早稲田大学）

18：00 ～ 懇親会（貞光ゆうゆう館にて）

当日は「終日雨」の天気予報がうまく外れて曇り空のもと、午前中はつるぎ町内見学ツアーでした。我が会員12名は、つるぎ町教育委員会の古林敏美氏の案内、町役場企画課課長さん運転のマイクロバスで出発しました。（川にそった山あいのクネクネ道の運転、何と上手なこと！）

最初の訪問は、2018年3月に国連「世界農業遺産」に認定された「にし阿波の傾斜地農耕システム」を、ご夫妻で守っておられる農家です。この世界農業遺産（GIAHS）の詳細は午後の講義で報告・解説されました。

この地域では急斜面を段々畑ではなく斜面をそのまま耕して、まるでスキーのジャンプ台。転げ落ちれば谷底までです。

急斜面の畑にはソバが植えられ、まだ収穫前の白い花が残った状態でした。ソバ畑の見学の後、ソバの加工法についての講義です。

ソバは標高の高い急斜面でも比較的手間いらずでよく育つ作物で、「にし阿波」の特産品の一つになっていますが、単位面積あたりの収量が他の穀類より少なく、そのうえ加工に非常に手間がかかるそうです。収穫した実を茹でて、乾して、その後そば殻を脱穀します。この状態が「そば米」。それを粉碎すると「蕎麦切り」の原料としてお馴染みのそば粉となります。このように、とても手間がかかります。

次いで当地の郷土食「そば米雑炊」の試食。この雑炊は、そば米と鶏肉、油揚げ、人参、里芋、ねぎ、きのこなどを

煮干しだしと醤油仕立てで作る具たくさん栄養満点の雑炊です。参加者一同満足そうでした。

このあたりは、

多くの日本の山村同様完全に限界集落ですから、高齢の方たちによる農作業です。しかも傾斜地農業は大変な労力が必要です。この地に多くの方々が興味を持ってくださることに期待を寄せつつ、この地をあとに。

つぎに訪れたのは、剣山への登山道中にある、中央構造線の岩盤がつくる「土釜」の景観、貞光川にできた大きな釜のような滝壺です。巨大で滑らかな岩盤に力強く落ちてくる清流。川の対岸は硬い岩盤がむき出しになり、対するこちらは岩盤の上にもろい緑色片岩に覆われているなど地質学を学びながら、名瀑と紅葉の鑑賞は日頃たまった全身の垢をそぎ落としてくれる思いでした。

つるぎ町民宿での昼食はふるさと料理バイキングでご当地産物をいっぱい戴き、午後からの講座の会場つるぎ町就業センターへ戻りました。

午後の講座は、つるぎ町役場の大島氏から、世界農業遺産の説明から、「にし阿波地域」認定までの取り組みと今後の課題等について、また地元研究家の篠原氏からは、ご自身が収集・所蔵された資料を参考に石田梅岩の石門心学が江戸時代に半田村（現つるぎ町半田）に伝わった経緯、その後半田村で活躍した石門心学者のこと、つるぎ町での心学の現状等について講義されました。また、当会からの3人の講師は、それぞれの専門分野の話を分かりやすく、且つつるぎ町のこれからに何か活かすことができることはないかと模索しながらの講義でした。地元の方も参加されての約30名が熱心に聴講しました。

夕刻の懇親会では、地元つるぎ町について大いに語り合い、益々親睦を深めました。

（文責 永井康代）





## 第57回研究会報告

2019年9月7日土曜日に早稲田大学にて、第57回大学評価学会研究会が開催されました。報告された岡山会員と日永会員に要旨を書いていただきました。

### ステファヌ・マラルメ「禁域」を読む

岡山茂（早稲田大学）

「禁域」とは、マラルメがオックスフォード大学とケンブリッジ大学で講演したときの旅の思い出をつづった「有益な遠出」というテキストの一部である。発表では「有益な遠出」の全体を読みながら、この中世以来のイギリスの「大学」がフランスの「文学」と結びつくこと、そしてこの「大学／文学」が、いまの日本の大学をも照らす貴重なイデーであることを示そうとした。

オックスブリッジは、国内のエリートの養成から世界のエリートの養成へと脱皮することで新自由主義的な改革を生きのびた（荻谷剛彦『オックスフォードからの警鐘』）。19世紀初めから始まる内発的な改革と、そのなかでのジョン＝ヘンリー・ニューマンらのたゆまぬ努力によって、オックスフォードは「国家と教会の魂」となり、世俗化したあとも王室とは違った意味で国民をつなぐ紐帯となった。

ブレクジットが可能であるのは、オックスブリッジによる世界の大学の支配（「大学のグローバリゼーション」）がほぼ完成したからにほかならない。もとよりアメリカはその戦略の共犯であったし、中国もそれに乗った（上海交通大学による「ランキング」）。日本や韓国やフランスは、世界言語としての英語の地位が揺るがないなか、そこから逃れられそうもない。



早稲田大学時計塔とスカイツリー

しかし文学は土地のことば（母国語）にねざしている。それゆえ英語による「世界文

学」はありえない（『ハムレット』を読むには「コミュニケーション」とは異なる英語へのアプローチあるいは翻訳が必要である）。フランスはむしろ「大学／文学」とおして、エリートのための「禁域」ではなく、デモス（民衆と学生）のための、真理と正義をともに求めるデモクラシーのための大学を、EUのなかに維持するべく務めるべきではないか。私はマラルメをそう読んだ。

### （話題提供）第3サイクルの認証評価における「大学人」に関する諸基準

日永龍彦（山梨大学）

今回の研究会では、第17回全国大会において、①「大学評価のことをやらない」学会という世間の認知、②大学評価の話題につながらない大会時の総括討論、③学会規約3条にある「大学評価および評価基準に関して見解を公表する」という活動に着手できていない状況、④認証評価が第3サイクルに入り、今後7年間は基準が変更されない、という状況を打開するきっかけをつくりたいという思いから、「『大学人像』の再構築」というテーマに直結する認証評価基準を紹介し、意図を持った総括討論に至る大会企画のアイデアを話題提供として報告を行った。

報告では、「大学人の再構築」（大会趣旨説明）がとらえる評価の領域として、(1)管理運営・意思決定への参画、(2)教職員の採用・評価、をとりあげたが、フロアからは基準そのものを議論の対象にすることに対する疑問や、評価基準がもたらす事例収集を先行すべきといった意見が出され、大会の総括討論で評価基準についてディスカッションをしたいという提案への支持は少なかった。ただ、参加者から今後何に取り組むべきかの示唆は得られたので、本学会および全国大会の運営に生かせればと考えている。

## 海外出張報告：ウィスコンシン大学マディソン校を訪ねて

西垣順子（大阪市立大学）

10月末に米国のウィスコンシン大学マディソン校を訪問しました。学生・教職員を合わせると68,000人という大きな大学です。

滞在中、Student Learning AssessmentセクションでAssociate Vice Provost and Directorを務めるMo Bischof氏と面談できました。マディソン校には500もの教育プログラムがあり、それらの学習成果（outcome）評価を行うのは大変です。2017年に各プログラムがアセスメントプランを作り、3~5年ごとにレビューを行うことになっています。始まったばかりだが「教員団が学生の学習について研究すること」を大事にしている、Bischof氏のオフィスはその「研究」を支援するためにデータを提供したり、分析用のプラットフォームを構築したりしているとのことでした。一般の教員との間に共通理解を形成するのは容易ではないこと、時には孤独を感じることも、興味を持って日本から話を聞きに来てくれて嬉しいことなどを話されました。大阪市立大学のOCU指標にも関心を示してくださいました。

私が興味をひかれたのは、マディソン校が採用しているアセスメントサイクルです。日本ではPDCAという言葉が一律に幅を利かせていますが、マディソン校ではアセスメントサイクルをどう表現するか、学内でかなり議論をしたそうです。現在使われているのはWhat-Where-How-SoWhatで、前から順に「学生は何を学ぶことを期待されるのか」「それをカリキュラムのどこに組み込むのか」「どのようにして評価を行うのか」「評価結果は何を意味しているのか」で、Design-Map-Evaluate-Improveという単語と一緒に表記されることもあります。Bischof氏によるとこのような表現はMadison校に独自のもので、同じ表記を使っている大学はあまりないと思うと

いうことでした。

別の日にはWisconsin Ideaセミナーという連続講義に顔を出しました。この日はGloria Ladson-Billing教授による初等中等教育の話でした。アフリカ系と白人では学力に格差がありますが、ウィスコンシン州での格差は全米で一番大きいことが、いくつかのデータを用いて示されました。そして彼女は日本の学校について、「日本の学校はしんどい子どもをより手厚くケアする。アメリカとは逆だ」と話しました。そんな日本でも、例えば大阪では学力テストの結果を教員の処遇に反映するという方針を吉村市長（当時）が打ち出したりしていて、状況は厳しくなりつつあります。同時に、日本の学校がこれまで頑張ってきたことが海外の研究者から高く評価されているということは心強くもあります。国内だけではなく海外ともつながっていけると、日本の教育をめぐる息苦しさを打開する糸口があるかもしれません。

右の写真はB A S C O M HALL。本部棟に相当するような建物で、アドミニストレーターのオフィスが入る。正面玄関2階には大学マスコットのバッキー。建物の前にはリンカーン像。左足先が光っているのですが、新入生がここにタッチしたりよじ登ったりして写真を撮るからだそう。



## 年報編集委員会報告（2017.01.23）

昨年8月10日に大学評価学会年報第15号『現代社会と大学評価 教育と研究の現場から考える大学のグランドデザイン』が刊行されました。今号から、本学会の活動をより広く知っていただくために、一般の書店でも販売されている本年報に全国大会の全体像を理解していただ

けるよう、大会の日程、すべての自由研究発表のタイトル、課題研究のまとめ、総会の審議事項などを掲載することとしました。

現在、年報16号(本年7月刊行予定)を鋭意編集中です。16号掲載の論文等については投稿受付を締め切っておりますが、17号(2021年7月刊

行予定)への投稿については、年報あるいは学会ウェブサイトに記載されている「年報『現代社会と大学評価』執筆要領」にあるように、本年7月末日までに投稿の「予告」を年報編集委員会問い合わせ先宛にお送りください。書式は

問いません。第17回大会でのご報告予定者を始め、広く会員の皆様のご投稿をお待ちしています。

(文責 日永龍彦 年報編集委員長)

## 【大学評価学会の日誌】

2019年9月7日(土) 第57回研究会(早稲田大学・早稲田キャンパス)

第Ⅶ期第5回理事会(〃)

10月19日(土) 研究集会2019@徳島県つるぎ町(徳島県つるぎ町就業センター)

12月15日(日) 第Ⅶ期第6回理事会(愛知工業大学・本山キャンパス)

<予定>

2020年3月上旬 会計監査

3月6日(金) 第Ⅶ期第7回理事会(桜美林大学・新宿キャンパス)

3月7日(土)～8日(日) 第17回全国大会(〃)

会員総会(〃、7日)



## 会費納入のお願い

2019年度(2019年3月1日～2020年2月29日)の学会年会費をすでに請求させていただいております。年度末が近づいてきましたので、年度内の納入にご協力ください。

過年度分が未納の方につきましては、2019年度分とあわせてお支払いいただきますようお願いいたします。

ご不明な点は、事務局・細川([hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp](mailto:hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp))までお願いいたします。

---

編集・発行：大学評価学会

〈学会事務局〉 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学  
発達科学部 渡部昭男研究室  
Tel/Fax：078(803)7726 (渡部)  
e-mail:[akiowtnb@port.kobe-u.ac.jp](mailto:akiowtnb@port.kobe-u.ac.jp)  
〈事務連絡先〉 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学  
(会費・発送・HP管理)  
経営学部 細川孝研究室  
Tel/Fax：075(645)8634 (細川)  
e-mail: [hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp](mailto:hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp)  
URL：<http://www.unive.jp/>

〈会費納入先〉 郵便振替口座番号：00950-4-296005 名称：大学評価学会

---